<H16-3-A：解説>

コンペンセータの点検は電子レベルでも不可欠である。
その他は、問題文の通り。

解答：３

<H16-3-B：解説>

ア：「偶発的」読取り誤差や十字線（クロスヘア・くさびヘア）の合せ誤差は系統的でない。
イ：「視準距離」読定誤差を軽減させるためには、視準距離を短くする。
ウ：「視準線誤差」視準線は常に水平面と一致（平行）しなくてはならない。
エ：「傾斜地」前後標尺において、先端付近や根元付近を読定するため、傾斜地で影響が大きくなる。

解答：１

<H16-3-C：解説>

問題文の観測方程式に重量(p1=1.0；p2=2.0；p3=4.0)を掛けると次のようになる。

$V_1 = X_1 - 47.275$
$V_2 = -2X_1 + 2X_2 + 19.366$
$V_3 = -4X_2 + 150.296$

次に、未知数ごとにまとめて標準方程式を編成すると次のようになる。
$V_1 - V_2 = [3]X_1 + [-2]X_2 + [-66.641]$
$V_2 - V_3 = [-2]X_1 + [6]X_1 + [-130.830]$

よって、ア～オに入る数字は、次のようになる。
ア：３　イ：－２　ウ：６　エ：－66.641　オ：－130.830

解答：４

<H16-3-D：解説>

ア：標尺補正（1/2 級で標準的に行う補正）
イ：楕円体補正（エとの関連）
ウ：変動量補正（原則１級水準測量以上）
エ：正標高補正（１級水準測量以上に行うものでイに代わる方法）
オ：２級（アとの関連；高低差 70m 以上で省略可）

解答：２

© Sey Q‘xara　&　© Matsubara P.O